

アラジン通信



第39号

2017. 9. 15

NPO法人 介護者サポートネットワークセンター・アラジン

CONTENTS

・東京都地域居住支援モデル事業の取り組み	P1
・アラジン公開講座	P2
・アラジン公開講座・総会報告	P3
・インフォメーション	P4

～空き家問題と地域づくりのカップリング事業～

東京都地域居住支援モデル事業の取り組み



社会の高齢化に伴い、介護やケアの必要な人は増え続けます。そのなかには低所得者や独り暮らしの高齢者、あるいは認知症の方も多くいます。また地域で孤立してしまいがちな人も多く地域での「孤立化防止の対策」が急がれています。

一方で「増え続ける空き家（空き室）をどうするのか。」という社会問題が拡がり、国の政策としても掲げられました。この2つの課題解決に東京都として挑んでいるのが、今回の「東京都居住支援モデル事業」です。

日常的には、たとえば身寄りのない高齢者がおひとり、不動産屋を訪ねても「借りたくても借りられない」という状況があります。①そこでNPOが保証人として賃貸を借り上げ、緊急対応やいざというときの少額短期保険（葬儀・遺品整理など）もサービスとして付加することによって、大家さんに安心を担保し、空き家（室）を提供してもらい、少しでもなくすことに貢献します。

②また、日常的に地域から孤立しないよう「共同リビング」として、地域のコミュニティカフェや居場所をつなぎ、ランチ提供をしたり、そこから、配食（一緒に食べるなどの共食も）サービスや市民参加による見守り・家事援助などの生活支援サービスを創りあげ、就労支援にもチャレンジします。今年度そのソフトの「地域づくり」の部分、アラジンが引き受けることになりました。

①について：直接東京都からの委託を受けるのは「NPO法人市民福祉団体全国協議会」（注：介護保険サービスやたすけあいなど福祉に関わるNPO等約1400団体を連ねる全国組織。アラジンもこの組織の傘下の団体です。）

②について：アラジンでの具体的なモデル実践展開は、中野区・杉並区・新宿区のエリアです。9月末から中野区および新宿区にて、地域で活動したい人のきっかけづくりとしての研修を実施します。（新宿区の研修は、新宿区社会福祉協議会さんとの協働です。）

すでに、アラジンでは、2001年の発足以来、地域で孤立しがちな方をどのような方法や資源でつなげることができるのか、という課題に取り組んできました。介護者や高齢者を対象に、電話や訪問による相談事業、ケアラズカフェなどの居場所や拠点づくり、さらに場を支える人づくりなどを進めてきています。介護保険改正に伴う「総合事業」としての地域支援事業が各自治体で進められる中、今後ますますアラジンの地域実践の積み重ねとノウハウを生かす場が増えていくのではと予測し、これまでの実績の「みえる化」を図っていきたくないと計画中です。

この事業の進捗は、順次お伝えします。

（理事長 牧野史子）



介護とリスクマネジメント

～介護難民にならないために～

6月24日（日）に東京在宅サービス研修室にて、アラジン通常総会に続いて、公開講座2017「介護とリスクマネジメント ～介護難民にならないために～」を、フリージャーナリストの東田勉氏をお迎えして、44名（スタッフ含む）の参加のもと行いました。

「自分の生活や人生に、まだ介護は関係ないだろう」と考えることを後回しにしてはいませんか。実際には「介護が急に始まってしまい、どうしたらよいか戸惑った。」という方が多いのではないのでしょうか。今回の公開講座は、介護が人生の“リスク”にならないよう様々な情報と向き合うマネジメントに焦点を当てて開催しました。



第1部では、フリージャーナリストの東田勉氏により、長年のライターとしての豊富な経験をもとにした基調講演、その後、第2部として、参加者同士の交流会を、コーヒーサロンとして開催しました。

第1部 基調講演

自分にはまだまだと思っている介護が、突然始まり戸惑う人も多いと思います。介護が始まる前に知っておきたいポイントなどを中心にお話いただきました。

なぜ介護に入門書が必要なのか、という問題提起から、今介護をとりまく環境は激変している。財源は厳しく介護保険料の値上げや介護保険サービスは削減されている。人口構造の変化により平均世帯数は減少している。病院死者数は在宅死者数大きく越え、介護を受ける期間も女性、男性とも長くなってきている。そのような中で介護保険制度は3年に

1度改正され複雑化している、という現状に話が及びました。

このような中で、介護難民にならないためには、①介護保険サービスはどうしたら上手に使いこなせるか、②介護施設や高齢者の住まいにはどのような種類があるのか、③介護にはどれくらいお金がかかるのか（在宅、施設）、ということが最低限必要な知識として必要ではないか、という話がありました。

また、介護事業者と家族介護者との問題、福祉先進国との違い、離れた老親介護の問題などにも触れました。特に、安易に介護離職をしない（経済的破綻を招く）、介護は風土と切り離せない（気候、郷土食、方言が元気の源になる）ということに気を付けたい、とのこと。



介護にはいくらお金がかかるのか、という答えにくい課題にも触れられましたが、やはり簡単に話せる問題ではない、という前提で、誤解を恐れずに概算すると、年間100万円位が介護にかかる費用ということになりそうです。

最後に、抗認知症薬の飲み方や、認知症の方の介護の場合には、まず家族会に相談して欲しい、そのうえで家族と本人の生活を見てくれる医者を探すことが重要、との見解も述べられました。

（3ページへ）

～介護者支援モデルの波及を目指して～ 第14回通常総会開催

6月24日(土)午後、新宿御苑前の東京在宅サービス研修室にて、アラジンの第14回通常総会が開催されました。正会員109名のうち、当日は20名の会員が出席(委任状47名)のもと、アラジンの活動を振り返り、今後の活動を確認、共有する貴重な機会となりました。

牧野理事長の挨拶に始まり、議長に会員の野田真智子さんが選出されて議案が審議されました。まず第1号議案、第2号議案の2016年度事業報告・決算報告及び監査報告があり、それぞれが承認されました。続いて第3号議案、第4号議案の2017年度事業計画・予算案、第5号議案の役員改選、第6号議案の定款の変更が審議され、原案通り承認されました。今回は会員の方の参加も多く、アラジンの活動を知っていただくいい総会となりました。

介護離職防止に向けた区の実践や地域包括ケアシステムの中で「介護者支援」がきちんと位置付けられた今、アラジンがこれまで取り組んできた地域実践の積み重ねを、いかに波及していくかが問われています。これまでの地域での活動に加え、ノウハウの成果を形にすることに力を注ぐのが使命であることを全員で確認しました。

今年度も理事・スタッフとともに、17年目のアラジンの事業計画を実践すべく、日々活動を続けてまいります。会員や関係者の皆様のご理解、ご支援を今後ともよろしくお願い申し上げます。またアラジンへの忌憚のないご意見も頂戴できたら有難く思います。「介護者支援」のうねりを皆様とともに起こしていきたいと思っております。
(事務局 中島由利子)

第2部 参加者交流会

参加者交流会では、6つのグループに分かれ、講演の感想やご自身の体験などについて話し合いました。

各グループ4、5人ずつでしたが、様々な立場の方との交流がもたれました。



これから介護が始まりそうな方、現在介護中の方、介護離職に直面している方など、それぞれの悩みを共有できる場でもありました。

その中で介護離職については「自分は声を出して離職しないで済んだし、気持ちの切り替えもできた。辞めない方法を探して欲しい」との発言があったり、「本人の意思が確認でき

ない時に自分が決めないといけないのがしんどかった」などの悩みを吐露される場面もありました。

アンケートを含めた参加者からは、「これから介護が始まりそうなので、事前に話が聞けてよかった」「なかなか聞けないお金の話が聞けてよかった」「これからの自分に有意義であった」「知らなかった薬の話を聞いて良かった」「正解のない介護だが良い介護について深く話し合えた」「本などでは書けない情報を話してもらって良かった」など多くの意見が寄せられました。

アラジンでは、これからもみなさまに様々な情報や学びの機会を提供していきたいと思っておりますので、引き続きのご支援、よろしくお願いいたします。
(事務局 奥美津子)

★アラジンでは、今回の公開講座の講師 東田勉氏の著書

親の介護をする前に読む本 (講談社現代新書 税込定価864円)

ありそうでなかった介護家族のための入門書(帯文より)

認知症の「真実」 (講談社現代新書 税込定価864円)

認知症医療の「闇」と「希望」を描いた2014年最大の衝撃作(帯文より)

を、アラジン会員の方に、特別価格680円(税込)で販売いたします。10月末までにお申し込み頂いた方に限ります。なお、送料(120円)及び振込手数料はご負担ください。

お申込みは
事務局まで



アラジン公開講座 Vol. 2 のご案内

6月に引き続き、アラジン公開講座を開催しますので、是非ご参加ください。

●とき：2017年9月30日(土) 13:30~16:30

●ところ：新宿御苑前「東京在宅サービス」3階研修室

●プログラム：

第1部 講演

テーマ：認知症疾患医療センターの地域での役割

講師：新里 和弘氏(都立松沢病院認知症疾患医療センター センター長)

第2部 参加者交流会(コーヒーサロン)

●参加費：1,500円(茶菓子付き) *アラジン会員は500円になります。

*定員(60名)がございますので、早めにお申し込みください。

「健康介護コンシェルジュ」検定3級 インストラクター養成講座のご案内

アラジンでは、「健康介護コンシェルジュ」検定3級インストラクター養成講座を開催することになりましたので、ご案内いたします。

開催日時：10月19日(木) 10時~17時半

開催場所：東京在宅サービス3階研修室

受講料：通常10,000円のところ、今回は一般の方 5,000円

アラジン会員の方 3,000円

*なお、受講料の他、テキスト代3,000円、3級検定費用4,000円がかかります。

*詳しくは、同封のちらしをご覧ください。

アラジン 「マンスリーサポーター」制度 開始のご案内

アラジンでは、全国に介護者の支援拠点「ケアラズカフェ」の新規開設を支援するため、マンスリーサポーター制度の開始にむけて準備しております。詳細は追ってお知らせいたします。毎月ワンコイン(500円)から手軽に活動を支援して頂けますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

アラジン事務所を移転しました

真夏の8月9日、アラジンは事務所を移転しました。以前の事務所から数分、新宿御苑前駅に近くなりました。

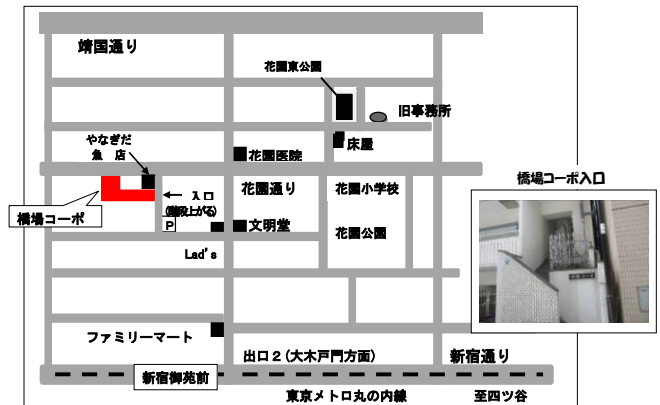
なお、住所以外の電話、FAX、メールアドレスなどの変更はございませんので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

【新住所】

〒160-0022

新宿区新宿1-18-10

橋場コーポ305号



編集後記：今年の夏は天候不順でしたね。東京地方は8月に20日以上雨がつつき、合間に猛暑日がある、という具合で体調管理もたいへんでした。9月の声を聞くころから季節は秋へと動いているようで、夕方、つくつくぼうしが鳴きやむと、もう鈴虫が羽をふるわせています。夏の疲れが出やすい頃です。みなさまくれぐれもご自愛ください。(M. O)

☆今年も会費をお納めいただいた方に、「会費お振込ありがとうカード」を同封させていただきます。まだ、お振込いただいていない方には、お振込いただきますようお願い申し上げます。

発行：NPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン 発行者：牧野史子

事務所：〒160-0022 新宿区新宿1-18-10 橋場コーポ305号

TEL 03-5368-1955 FAX 03-5368-1956

E-mail arajin2001@arajin-care.net URL http://arajin-care.net/